

近現代日本における女性とキャリアに関する社会調査データアーカイブ構築 にもとづく比較社会学的研究

研究代表者	尾 中 文 哉	日本女子大学 教授
共同研究者	大 澤 真知子	現代女性キャリア研究所長・日本女子大学 教授
共同研究者	永 井 暁 子	日本女子大学 准教授

1 はじめに

1-1 本研究の目的

本研究は、「近現代日本における女性とキャリアに関する社会調査データアーカイブ構築にもとづく比較社会学的研究」と題し、時代としては近現代全体を射程に入れつつ、女性とキャリアに関する社会調査のデータアーカイブを構築し、それを活用した比較社会学的研究を行うことを目的とする。

このデータアーカイブは、日本女子大学現代女性キャリア研究所が2008年～2010年にかけて文部科学省私立大学戦略的基盤形成支援事業「戦後日本の女性とキャリアに関わる文献資料調査とデジタル保存」で開始し、2011～2015年には同事業の「データアーカイブの運用と拡充」として行ってきた事業の継続として2016～2018年度に実施したものである。

「データアーカイブ」というのは、図書館学(Library Science)という固有の広がりをもつ学問分野に属するものでもあるが、それを内容的な研究に結びつけようという意図である。それは、アンケートなりインタビューなりドキュメント分析なりといったモノグラフ的調査を行うことによる比較社会学とは若干異なり、アーカイブを構築・整備し、またその構築されたものを比較する作業を、図書館学に貢献する研究とするのではなく、社会についての実質的な考察に結び付けようという「観察の観察」(Luhmann 1998:766)的なプロジェクトである。

ここで「近現代日本」であるが、まず「近代」としては明治期以降、「現代」としては、国際婦人年である1975年からを指すこととする。以下で取り上げるデータアーカイブのうち、日本女子大学現代女性キャリア研究所データアーカイブ(RIWAC-DA)、労働政策研究・研修機構(JILPT)データベース、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター(SSJDA)の社会調査データベースは主としては「現代」に照準しつつも、部分的にそれ以前の「近代」に属する資料も入っている。国立女性教育会館(NWEC)は19世紀にさかのぼる資料を多く収集・公開している。したがっていずれも「近現代日本」と呼んで遜色がないデータベースなのである。比較対象としたUK Data Archiveはたとえば16世紀にさかのぼる資料、GESISはたとえば19世紀にさかのぼる資料も公開しており、十分「近現代」をカバーしている。

ここで「データアーカイブ」とは、文書資料を、それに関する情報とセットにして保管し、少なくともその一部を何らかの形で公開することと定義する。狭義にはそれは図書や報告書等として発行されたものを収集し情報ファイルを作成し、当該情報ファイルのほうをインターネット上で公開することを指すこととする。広義には、図書や報告書に限らず何らかの文書について、その情報の一部を何らかの形で公開することを指すことにする。

また「女性とキャリア」という部分は、「女性」と「キャリア」を独立した別のテーマとしてとらえて研究するというよりも、「女性とキャリアの関係」いいかえれば、「女性のキャリア」を焦点として考えることとする。

1-2. 本研究の背景

アーカイブという知的事業は、アッシリア帝国(紀元前933-紀元前612)で開始し、ローマ帝国(紀元前27-紀元後395)、ビザンチン帝国(395-1453)やバチカンほか教区・修道院に受け継がれ、その後、中世末期以降定住するようになったイタリアやフランスやイギリスやドイツの王侯たちの居城でも行われるようになり、最終的にはフランス革命で確立することになったものである。そこではじめて国レベルで公共性のあるアーカイブ、すなわち国立公文書館(National Archive, Archives Nationales)が誕生した(Posner 1984:3-5)。

国立国会図書館はいうまでもなく、国立女性教育会館や東京大学社会科学研究所のデータアーカイブは、こうした国立公文書館の流れを直接汲むものといえる。それに対し、日本女子大学現代女性キャリア研究所

のデータアーカイブは、私立大学のそれであり、これとは異なるということもできるが、運営の仕方によっては部分的にそうした役割ももつと考えることも不可能ではない。

Schellenberg(1984)によると、パブリックレコードの価値には Evidential Value (証拠的価値)と Informational Value (情動的価値)の二種類があり、それにより採否(appraisal)を決めるという。前者は、そのレコードを生み出した政府の組織や機能の証拠となる価値であり、後者は、政府が取り扱う人や機関や物や問題や状況等についての情報の価値である(ibid.:58)。Schwellenberg は国立公文書館を前提としているのでこのような定義になるが、本研究の場合は、「政府」のかわりに「日本女子大学」を入れた定義となる、とさしあたりはいつておけるであろう。

2 データアーカイブの比較研究

2-1 取り扱うデータアーカイブの概要

(1) 現代女性キャリア研究所データアーカイブ(RIWAC-DA)

現代女性キャリア研究所(RIWAC)は、「女性の多様なキャリア開発のための基礎的研究『女性とキャリアアーカイブ』構築にむけて」を2008～2010年度「私立大学戦略的研究基盤形成事業」(文部科学省)の助成を受けて開始した(三具他 2011:14)。そこでは「キャリアという言葉は、狭く職業経験を意味して使われることが多いが、RIWACではこれを広く『生き方』として捉えている」(loc. cit.)。つまり、女性の「生き方」は、個々人の主体的な選択のプロセスであるとともに、これを制約している様々な社会的条件の中にあると考えるのである(loc. cit.)。そこでは職業経験にとどまらず「高学歴化」など教育の側面、結婚、子育て、介護など家族の側面も視野に入れている(loc. cit.)。

そして、RIWAC-DAは「社会調査」に注目する。なぜなら「社会調査自体は大量に実施されているにも関わらず、必ずしもその成果が共有されず、したがって有効にされているとはいえない」(loc. cit.)からである。そういう問題関心に基づき、「女性とキャリア」に関わる文献・資料の発掘作業及びその整備・分析・保存を行うとともに、それを内外の研究者、教育機関、企業、公共団体等によって広く利用可能なものとする(loc. cit.)ことを目指して設立された。

現代女性キャリア研究所は…
◇女性に関するさまざまな研究プロジェクトのネットワーク拠点をめざしています。
◇広い意味での女性のキャリア(生き方)に関する情報を収集しています。

社会調査データ検索へ 女性のセカンドチャンス経験事例検索へ

本研究所では、国際婦人年(1975年)以降に実施された、女性とキャリア(生き方)に関する社会調査を多数収集し、その詳細誌データをデータベース化し、ネット上で公開することとなりました。レポートや論文作成、ゼミ報告などに、多様な社会調査をぜひ役立てて下さい。

RIWAC・DAのコンテンツ

①社会調査 ②日本女子大学卒業生調査 ③女性のセカンドチャンス経験事例

(出典：現代女性キャリア研究所「RIWAC-DAのコンテンツ」『日本女子大学現代女性キャリア研究所』(<http://search.riwac.jp/>) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-1 RIWAC-DAのコンテンツ

そのなかでは、既に存在する国立女性教育会館(NWEC)の女性デジタルアーカイブや東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターの社会調査データベース(SSJDA)との重複を避けることが留意されている(三具他 2011:15)。

また、収集範囲としては、「国際婦人年にあたる1975年以降の、職業キャリアに限定されない女性の生き方を探求するための社会調査に特化したデータアーカイブ」(loc. cit.)とされている。つまり、「第1章はじめに」の定義からすると、社会調査に関しては「現代」に限定されているわけである。それと同時に、日

本女子大学の卒業生を対象として行ってきた調査を組み込む(loc. cit.)。



(出典：現代女性キャリア研究所「RIWAC-DA 検索」『日本女子大学現代女性キャリア研究所』(http://search.riwac.jp/socialresearch) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-2 RIWAC-DA 検索

また、別プロジェクトで全国の女性から経験談を公募した女性のセカンドチャンス経験事例も「社会調査データベース」とは別ページで加えている(loc. cit.)。

女性のセカンドチャンス経験事例

2007年12月に全国の男女共同参画センター等へ公募ポスター、チラシを配布し、日本女子大学HPでも「女性のセカンドチャンス」経験事例手記募集を行いました。2008年1月には朝日新聞に公募を掲載。189名の応募者があり、そのうち同意を得られた約130名の事例を公開します。2007年の応募原稿から読み取れる範囲内で判断し、7つのライフコースに分類して掲載しています。
(下図参照)



(出典：現代女性キャリア研究所「セカンドチャンス経験事例」『日本女子大学現代女性キャリア研究所』(http://search.riwac.jp/secondchance) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-3 RIWAC-DA 検索

今回は、前者の「国際婦人年にあたる 1975 年以降の、職業キャリアに限定されない女性の生き方を 探求するための社会調査に特化したデータアーカイブ」をブラッシュアップし、追加することを通じた研究を意図している。

(2) 国立女性教育会館 (NVEC)



(出典:「国立女性教育会館」(<https://www.nwec.jp/>)[2019.2.25 閲覧])

図 2-4 「国立女性教育会館」トップページ

ホームページによると、国立女性教育会館は、「女性教育指導者その他の女性教育関係者に対する研修，女性教育に関する専門的な調査及び研究等を行うことにより，女性教育の振興を図り，もって男女共同参画社会の形成の促進に資することを目的とする機関」であるという⁽¹⁾。その「事業内容」の「6」として「女性教育に関する情報及び資料を収集し，整理し，及び提供すること」とあり、それに対応してホームページには、「図書・資料・データベース」というサイトがあり、「データベース一覧」には、次のような項目がならんでいる。

Winet (ウィネット) 文献情報データベース 女性デジタルアーカイブシステム 女性アーカイブセンター資料群一覧 国立女性教育会館リポジトリ 女性関連施設データベース 女性と男性に関する統計データベース 女性情報レファレンス事例集 女性のキャリア形成支援サイト NWECC 災害復興支援女性アーカイブ 女性情報ナビゲーション 日本女性のミニコミデータベース 海外女性情報専門データベース 女性情報シソーラス

(出典: 国立女性教育会館「データベース一覧」『独立行政法人国立女性教育会館』(<https://www.nwec.jp/database/list/index.html>)[2019.2.25 閲覧]より作成。)

表 2-1 NWEC のデータベース一覧

一番目に Winet は、NWECC で蓄積している新聞・雑誌記事、本・地方行政資料、Web、統計への入り口となるサイトであると同時に、様々な情報資料の更新情報が掲載されている。



(出典：国立女性教育会館「Winet」『独立行政法人国立女性教育会館』
(<http://winet.nwec.jp/>) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-5 Winet トップページ

二番目に、文献情報データベースは、図書館のOPACのような仕方で図書資料が検索できるようになっているサイトである。



(出典：国立女性教育会館「文献情報データベース」『独立行政法人国立女性教育会館』
(http://winet.nwec.jp/bunken/opac_search/?smode=1) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-6 文献情報データベーストップページ

三番目に、「女性デジタルアーカイブシステム」は、同館が所蔵している資料をデジタル化して公開しているもので、近代も含めて貴重な資料が直接閲覧できるサイトである。



国立女性教育会館 女性デジタルアーカイブシステム

更新日：2019/02/22

TOP

より詳細な条件で探す

カテゴリ

資料群

ブラウズ

キーワード

年表検索

国立女性教育会館へのリンク

国立女性教育会館女性アーカイブセンターが所蔵する資料の目録とデジタル画像を提供しています。

検索キーワードを入力して「検索」ボタンをクリックしてください

Copyright © National Women's Education Center of Japan All Rights Reserved.

(出典:国立女性教育会館「女性デジタルアーカイブシステム」『独立行政法人国立女性教育会館』(http://w-archive.nwec.jp/il/meta_pub/G0000337warchive) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-7 女性デジタルアーカイブシステムトップページ

四番目には、女性アーカイブセンター資料群一覧サイトは、デジタルアーカイブにリストの形でアクセスできるものである。

HOME | 図書・資料・データベース

図書・資料・データベース

女性アーカイブセンター資料群一覧

図書・資料・データベースの探し方

新着図書・資料

パッケージ貸出サービス

データベース一覧

女性アーカイブセンターでは、資料を寄贈元別に分け、「資料群」として保存しています。公開している資料群は「女性デジタルアーカイブシステム」で目録を検索できます。

[女性アーカイブセンター](#) > [女性デジタルアーカイブシステム](#)

<資料群2> 稲取婦人学級資料

文部省主導で昭和29（1954）年度から昭和31（1956）年度に実施された、静岡県稲取町（現・東伊豆町）に

(出典:国立女性教育会館「女性アーカイブセンター資料群一覧」『独立行政法人国立女性教育会館』(https://www.nwec.jp/database/list/archives.html) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-8 女性アーカイブセンター資料群一覧トップページ

五番目には、「国立女性教育会館リポジトリ」があり、これは国立女性教育会館が発行している発行物をOPAC式に検索できるものである。

国立女性教育会館リポジトリ
National Women's Education Center of Japan Repository

お知らせ
2019.1 本あり
vol.15:「働き方は変わっている？」を登録しました。
2018.10 "男女共同参画すごろく" (電子版) を登録

WEKO
トップ ランキング

館
詳細検索 全文検索 キーワード検索

インデックスツリー インデックスリスト

(出典:国立女性教育会館「国立女性教育会館リポジトリ」『独立行政法人国立女性教育会館』(https://nwec.repo.nii.ac.jp/) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-9 国立女性教育会館リポジトリトップページ

六番目に、「女性関連施設データベース」は、全国にある女性関連施設(特に地方自治体関連施設が多いようであるが)を検索できるサイトである。

女性関連施設データベース
全国の女性センター・男女共同参画センター・働く婦人の家等
女性関連施設の概要、事業について、調査結果をデータベース化しました。

施設概要の詳細から探す 事業の詳細から探す 情報事業の詳細から探す 相談事業の詳細から探す このデータベースについて 利用方法

検索開始 クリア 表示件数: 20 要約表示: 有り

フリーワード
同義語使用 シソーラス展開
* 単語 3 つまでです。詳しくは「利用方法」をご覧ください。同義語使用・シソーラス展開とは

地図から検索
北海道
青森
秋田 岩手

(出典:国立女性教育会館「女性関連施設データベース」『独立行政法人国立女性教育会館』(http://winet.nwec.jp/sisetu/) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-10 女性関連施設データベーストップページ

七番目に、女性と男性に関する統計データベースでは、次のような項目について統計が検索できるようになっている。

人口Population
世帯・家族Household and family
労働Labour
生活時間・無償労働Time use and unpaid work
家計・資産Household budget and property
教育・学習Learning and study
社会保障・福祉Social security and welfare
健康・保健Health
安全・犯罪Security and crime
意思決定Decision-making
意識調査Consciousness survey
人事院National Personnel Authority
内閣府(総理府・経済企画庁)Cabinet Office
警察庁National Police Agency
防衛省(防衛庁)Ministry of Defense
総務省(総務庁・自治省)Ministry of Internal Affairs and Communications
法務省Ministry of Justice
外務省Ministry of Foreign Affairs
文部科学省(文部省・科学技術庁)Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
厚生労働省(厚生省・労働省)Ministry of Health, Labour and Welfare
社会保険庁Social Insurance Agency
農林水産省Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
国土交通省(建設省)Ministry of Land, Infrastructure and Transport
最高裁判所Supreme Court of Japan
その他Others

(出典:国立女性教育会館「女性と男性に関する統計データベース」『独立行政法人国立女性教育会館』(http://www.nwec.jp/)[2019. 2. 22 閲覧])

表 2-2 女性と男性に関する統計データベース項目

八番目には、「女性情報リファレンス事例集」として、情報収集に関する相談を分類・掲載し、検索できるようにしている。

[国立女性教育会館](#)
[女性情報ポータル](#)

女性情報リファレンス事例集
[使い方]

女性関連施設でよくある情報相談(リファレンス)を、Q&Aの形式でまとめた事例集です。男女共同参画に関わる様々な情報をお探しの方、また情報提供に携わるスタッフに役立つ事例を提供していますので、どうぞ活用ください。

【使い方ヒント】
 全事例を通覧するには → 何も検索条件を指定せず、「検索開始」ボタンをクリックします。
 特に基本的な事例を見るには → 「基本事例」にチェックを入れて検索します。
 ※基本事例 ♡・・・情報担当者として、ぜひ知っていて欲しい事例です。

事例検索

カテゴリー検索 (複数選択できます) 全カテゴリーを選択

<input type="checkbox"/> 01. 思想・理論・運動 (29)	<input type="checkbox"/> 02. 歴史・民族・宗教 (27)	<input type="checkbox"/> 03. 教育・研究 (53)
<input type="checkbox"/> 04. 性・心・からだ・健康 (64)	<input type="checkbox"/> 05. 政治・政策・法律 (62)	<input type="checkbox"/> 06. 社会 (70)
<input type="checkbox"/> 07. 労働・社会保障 (87)	<input type="checkbox"/> 08. 経済 (22)	<input type="checkbox"/> 09. 世帯・家族 (61)
<input type="checkbox"/> 10. くらし・環境 (48)	<input type="checkbox"/> 11. 科学・技術 (10)	<input type="checkbox"/> 12. ことば・情報・メディア (39)
<input type="checkbox"/> 13. 文化・芸術・スポーツ (18)		

♡ 基本事例

フリーワード: 同義語使用 シソーラス展開
(3語まで可) * 単語 3 つまでです。詳しくは「使い方」をご覧ください。(同義語使用・シソーラス展開とは)

検索対象: 質問と内容 質問のみ 内容のみ

(出典:国立女性教育会館「女性情報リファレンス事例集」『独立行政法人国立女性教育会館』(http://winet.nwec.jp/tictconsult/)[2019. 3. 5 閲覧])

図 2-11 女性情報リファレンス事例集トップページ

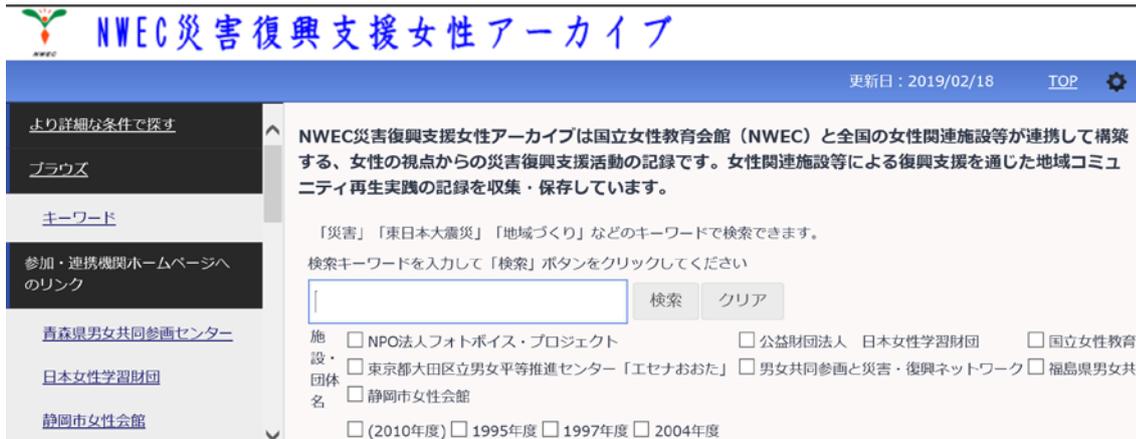
九番目には、「女性のキャリア形成支援サイト」として、「再就職」、「就業継続」、「起業・経営」、「NPO 活動・地域づくり」、「農林水産業・自然環境」、「政策・方針決定への参加」、「国境を越えた活動」、「研究者・技術者」などについて「事例」「学習支援情報」などが紹介されている。



(出典:国立女性教育会館「女性のキャリア形成支援サイト」『独立行政法人国立女性教育会館』(http://winet.nwec.jp/?page_id=145) [2019. 3. 5 閲覧])

図 2-12 「女性のキャリア形成支援サイト」トップページ

十番目には、「NWEC 災害復興支援女性データアーカイブ」では、災害復興支援に関わる資料が検索できるようになっている。



(出典:国立女性教育会館「NWEC 災害復興支援女性データアーカイブ」『独立行政法人国立女性教育会館』(http://w-archive.nwec.jp/il/meta_pub/sresult) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-13 NWEC 災害復興支援女性データアーカイブトップページ

十一番目には、「女性情報ナビゲーション」サイトでは、女性に関わるリンク集を公開している。



(出典:国立女性教育会館「女性情報支援ナビゲーション」『独立行政法人国立女性教育会館』(http://w-archive.nwec.jp/il/meta_pub/sresult) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-14 女性情報支援ナビゲーショントップページ

十二番目には、「日本女性のミニコミデータベース」として、五十余りのミニコミ誌にアクセスできるようになっている。



(出典:国立女性教育会館「日本女性のミニコミデータベース」『独立行政法人国立女性教育会館』(https://www.nwec.jp/database/list/cb4rt20000001xv5.html) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-15 日本女性のミニコミデータベーストップページ

十三番目には、「海外女性情報専門データベース」として、Gender Watch, Gerritsen Collection, Routledge History of Feminism という海外の三つの女性情報データベースにアクセスできるようになっている。

HOME | 図書・資料・データベース | データベース一覧 | 女性アーカイブセン

図書・資料・データベース	海外女性情報専門データベース
図書・資料・データベースの探し方 新着図書・資料 パッケージ貸出サービス データベース一覧	<p>NWECの施設内（女性教育情報センター・研修棟・宿泊棟）限定で利用可能な、海外女性情報専門のデータベース</p> <p>GenderWatch</p> <p>女性問題に関する学術雑誌のほか、新聞、ニュースレター、パンフレット、会議録など数十万件の全文記事を収め、1970年から最新号まで幅広い範囲の記事を収録しているのが特徴です。</p> <p>GenderWatch</p>

（出典：国立女性教育会館「海外女性情報専門データベース」『独立行政法人国立女性教育会館』（<https://www.nwec.jp/database/list/cb4rt20000001xv5.html>）[2019. 2. 25 閲覧]）

図 2-16 海外女性情報専門データベーストップページ

十四番目には、「女性情報シソーラス」として、女性情報を検索する際に役立つ用語集が掲載されている⁽²⁾。

HOME | 図書・資料・データベース | データベース一覧 | 女性アー

図書・資料・データベース	女性情報シソーラス
図書・資料・データベースの探し方 新着図書・資料 パッケージ貸出サービス データベース一覧	<p>女性に関する情報を効率よく検索するための用語集です。</p> <p>「女性情報シソーラス」の解説</p> <p>シソーラスとは、情報検索する際に用いられる用語を整理し、同義語、広義語、狭義語、関連語等と関連づけた情報を探すときには、どの「言葉」で探すかが重要です。思いついた言葉で探すだけでは、検索漏れ、ノイズが生じます。整備されたシソーラスがあれば、以下のように効率的な検索ができます。</p>

（出典：国立女性教育会館「女性情報シソーラス」『独立行政法人国立女性教育会館』（<https://www.nwec.jp/database/list/http://www.nwec.jp/jp/portal/page03.html>）[2019. 2. 25 閲覧]）

図 2-17 女性情報シソーラストップページ

このように、実に多岐にわたる情報が、非常な量で提供されており、RIWAC に比べはるかに充実しているといわざるを得ない。

(3) 独立行政法人 労働政策研究・研修機構（JILPT）データベース

独立行政法人 労働政策研究・研修機構は、「内外の労働に関する事情及び労働政策についての総合的な調査および研究並びにその成果の普及を行う」⁽³⁾とあり、その後段に対応してサイトには「データベース」というページが設けられ、調査研究が検索できるようになっている。

本文へ | ホーム | リーマップ | 情報公開 | お問い合わせ | English

労働に関する総合的な調査研究を実施し、その成果を広く提供しています。

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
The Japan Institute for Labour Policy and Training

文字サイズ
小 中 大 特大

Google カスタム検索 × 検索 🔍 ヘルプ

機構について | 研究体系 | 調査研究成果 | 統計情報 | **データベース** | 労働図書館 | 刊行物 | イベント・講座

現在位置: ホーム > データベース

データベース 労働関係の論文、調査研究成果・蔵書のデータベース

データベースまとめて検索

「蔵書」「論文」「調査研

(出典: 独立行政法人 労働政策研究・研修機構「データベース」『独立行政法人 労働政策研究・研修機構』(http://db.jil.go.jp/) [2019.2.25 閲覧])

図 2-18 JILPT データベーストップページ

(4) 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター (SSJDA) 社会調査データベース

これは東京大学社会科学研究所が設置したデータアーカイブであるが、ホームページによると、「データアーカイブは、統計調査、社会調査の個票データ（個々の調査票の記入内容。マイクロデータ）を収集・保管し、その散逸を防ぐとともに、学術目的での二次的な利用のために提供する機関です」となっている⁽⁴⁾。「我が国にはこれまで組織的なデータアーカイブがなかったため、多くの調査が実施されているにもかかわらず、それらの個票データは、当初の集計が終わるとともに徐々に消えていくのが現状」⁽⁵⁾という問題意識に基づき、「東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターは、我が国における社会科学の実証研究を支援することを目的として、SSJ データアーカイブ (Social Science Japan Data Archive) を構築、個票データの提供を 1998 年 4 月から行って」いるという⁽⁶⁾。

社会調査・データアーカイブ共同利用・共同研究拠点
 東京大学 社会科学研究所
 附属社会調査・データアーカイブ研究センター

SSJDA

HOME お問い合わせ サイト内検索

ENGLISH センターのパンフレットのダウンロード(PDF)

センターについて SSJDAについて データの寄託 データの利用 社研パネル調査 共同調査と共同研究 二次分析研究会 計量分析セミナー 国際連携

Center for Social Research and Data Archives

探す 利用する SSJDA Direct 分析する Nesstar 学ぶ 寄託する

【SSJDAのデータを初めてご利用される方】は[こちら](#)。

センターからのお知らせ

2019年度共同利用・共同研究公募(参加者公募型・課題公募型)の募集を開始しました(機切:2019年4月22日(月)17時)

＜計量分析セミナー・春＞(2019年2月28日(木)～3月4日(月)開催)募集を終了しました。たくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。

＜計量分析セミナー・春＞(2019年2月28日(木)～3月4日(月)開催)募集を開始しました(～2月15日(金)17時まで)。

「高校卒業後の生活と意識に関する調査」ならびに「結婚と日常生活に関する調査」Webでの回答受付は終了いたしました。郵送での回答は現在も受け付けております。

SSJDAデータ公開情報

2019-02-15

1213「第9回結婚・出産に関する調査、2016」(明治安田生活福祉研究所)を公開しました。

1228「食育に関する意識調査、2017」(農林水産省 消費・安全局 消費者行政・食育課)を公開しました。

1230「平成29年度食育活動の全国展開委託事業により実施した全国の子供食堂を対象としたアンケート調査、2017」(農林水産省 消費・安全局 消費者行政・食育課)を公開しました。

2019-02-01

1195「女性の化粧行動・意識に関する実態調査、2014」(ポーラ文化研究所)を公開しました。

ICPSR 国内利用 協議会のご案内

社研メールニュースのご案内

お問い合わせ サイトマップ プライバシーポリシー センター内スタッフ専用ページ

東京大学 ISS 東京大学 社会科学研究所

Copyright 2019 © CSRDA committee All Rights Reserved.

(出典: 東京大学社会科学研究所「東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター」『東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター』(https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-19 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センタートップページ

ここでは、調査によるデータのアーカイブ化を行い、一定の手続きに基づいて貸し出しを行っている。

データ検索

概要全文 :	調査名 :
寄託者名 :	調査年 :
トピック (詳細は こちら) :	調査対象の単位 (詳細は こちら) :
指定なし	指定なし
教育目的利用	指定なし
表示順	
調査番号(昇順)	
検索	内容をクリア

* 調査名をクリックしますと、データの概要が表示されます

<< < 1 2 3 4 5 6 7 > >> 全1356件

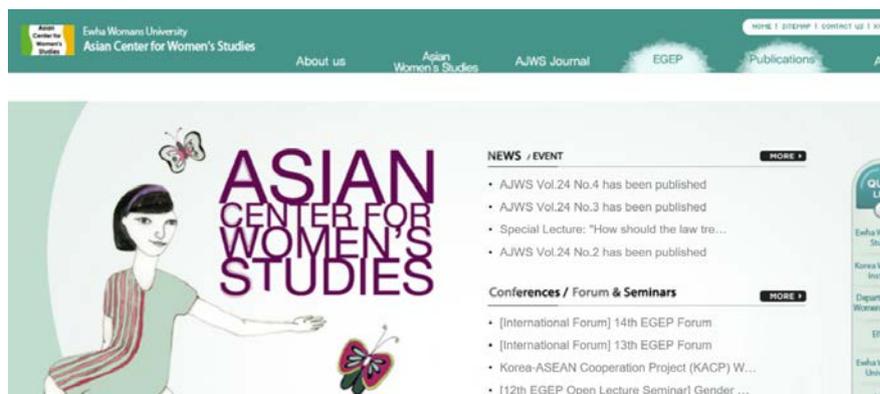
(出典：東京大学社会科学研究所「SSJDA Direct」『東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター』
(<https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/Direct/datasearch.php>) [2019. 2. 25 閲覧])

図 2-20 SSJDA Direct トップページ

そのほか、Nesstar というアプリケーションに登録されたデータについては、単純集計とクロス集計を作成することもできるなど、高度な公開を行っている。

(5) Asian Center for Women's Studies, Ewha Women's University (梨花女子大学 女性学のためのアジアセンター)

梨花女子大学にあるアジア女性学センターである。AJWS (The Asian Journal of Women's Studies, Taylor and Francis) という英文雑誌の発行および EGEP (Ewha Global Empowerment Program) というプログラムなどを実施することを重視しており、図書・報告書等を収集する狭義のデータアーカイブ業務は実施していないようである。として整備し整理・蓄積していくものなので、広義のデータアーカイブ業務を実施しているといえる。



(出典：Asian Center for Women's Studies 「Asian Center for Women's Studies, Ewha Women's University: home」『Asian Center for Women's Studies, Ewha Women's University』
(<http://acws.ewha.ac.kr/eng/>) [Last access on: 2019. 2. 28 閲覧])

図 2-21 梨花女子大学 女性学のためのアジアセンタートップページ

(6) Women's Studies Center, Chiangmai University (チェンマイ大学 女性学センター)

チェンマイ大学の女性学センター(Women's Studies Center)である。現在は博士課程までである学科としての活動が重要となっている。ここでも図書・報告書等を集積する狭義のアーカイブ業務は行わず、そうした業務は同大学中央図書館に任せているようである。ここでは、を大学院教育を通しての学位の授与を行っているわけであるが、女性と社会調査に関する資料を、学位論文という書誌事項の整った書物の形で整理・蓄積していくものなので、これも広義のデータアーカイブ業務といえるかもしれない。



(出典: Women's Studies Center 「Department of Women's Studies, Women's Studies Center, Chiangmai University: home」 『Department of Women's Studies, Women's Studies Center, Chiangmai University』 (<http://acws.ewha.ac.kr/eng/>) [Last access on: 2019. 2. 28 閲覧])

図 2-22 チェンマイ大学女性学センタートップページ

(7) UK Data Archive

これはエセックス大学に1967年に当時の社会科学研究協会(Social Science Research Council)の支援を受けて設立されたデータアーカイブであり、イギリスと外国、それもすべての大陸に関して、出生から教育、雇用、社会的相互作用、老年に至るまでデータとメタデータ(データについてのデータ)を収集し、長期にわたり使えるように管理しているという⁽⁷⁾。現在でも、経済・社会調査協会がこれをサポートしている。2005年からは国立公文書館の中の寄託場所として指名されている⁽⁸⁾。



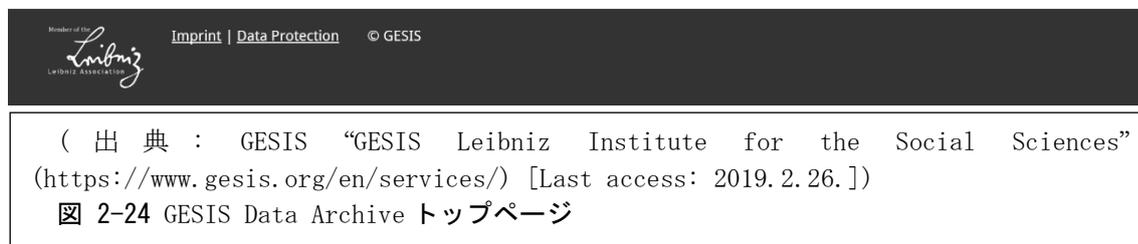
(出典: UK Data Archive “About the Archive” UK Data Archive (<http://data-archive.ac.uk/home>) [Last access: 2019. 2. 26.])

図 2-23 UK Data Archive トップページ

SSJDAと同様に、Nesstarを用いたデータの提供を行っており、オンラインでも単純集計などの作業ができるようになってきている。

(8) GESIS Data Archive

これはドイツのライプニッツにおかれたGESIS Leibniz Institute for the Social Sciencesの中におかれたデータアーカイブである。GESISとは、本質的で国際的に意味のある調査ベースの社会科学のためのサービスを提供する機関であるという⁽⁹⁾。プレジデントのもとに5つの機関が置かれているが、そのうちのひとつがDAS (Data Archive for Social Sciences)であるという⁽¹⁰⁾。



ここでもSSJDAやUK Data Archiveと同様、Nesstarを用いたデータの提供を行っており、オンラインでも単純集計などの作業ができるようになってきている。

2-2 考察

(1) 制度上の比較

日本女子大学に2008年に設立された現代女性キャリア研究所は、これらに学びつつ、目的もかなりの部分共有しているとはいえ、若干異なる道を歩んできたということができる。

その最大の点は、まさしく、狭義のデータアーカイブを持つということである。Asian Center for Women's Studiesの場合も、Department of Women's Studies, Chiangmai Universityの場合も、若干の資料を内部にもってはいるものの、それを狭義のデータアーカイブとして整備し公開するようなことはおこなっていない。梨花女子大学女性学のためのアジアセンター(Asian Center for Women's Studies)の場合、AJWSという雑誌を質の高い形で出版し続けているわけだが、雑誌発行も女性と社会調査に関する資料を書誌事項の整った一連の書物を発行するわけで、広義のデータアーカイブ事業を行っているといえるし、チェンマイ大学女性学センター(Chiangmai University, Women's Studies Center)の場合も、博士課程までの大学院を持つことで学位論文という形で女性キャリアに関する広義のデータアーカイブ事業を行っている。しかしながら、この両センターは、狭義のデータアーカイブは持たないのである。日本女子大学現代女性キャリア研究所RIWACは、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター(SSJDA)や国立女性教育会館(NWEC)、労働政策研究・研修機構(JILPT)に学びながら狭義のデータアーカイブ事業を行っていることは、女性センターとしての特徴といえる。

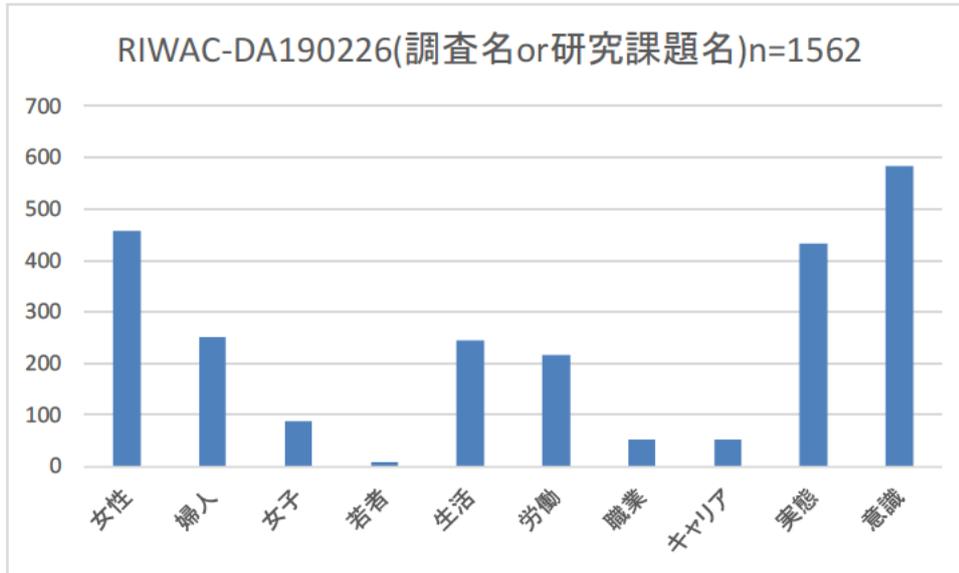
(2) データアーカイブ内容に関する比較

本章では、RIWACおよび他のデータアーカイブについて、データアーカイブの内容にもとづく比較を行ってみたい。方法としては、次のような手順をとった。(1)RIWACについては全体、他のデータアーカイブについては検索サイトを用い、「女性」あるいは同様の語彙と、必要な場合には「社会調査」という語を入れて検索を行い、対象とするデータリストを作成する。(2)そのなかでタイトル(調査名、成果物名、データ名など)

についてのカラムを作成する。(3)まずデータマイニングソフトを用いて RIWAC についての分析を行い、頻度を基準に重要なターム(「若者」「生活」「労働」「職業」「キャリア」「実態」「意識」)を選び出す。(4)「女性」関連語彙(女性、婦人、女子、woman, women, girl など)およびそれらの重要タームを用いて、各データベースの特徴を描き出す。

(2-1) RIWAC-DA

以上のような手順でまず RIWAC-DA についての特徴を描き出した。



(出典: RIWAC オリジナルデータに基づき筆者作成)

(図 2-25) 各語彙の出現頻度からする RIWAC-DA[2019 年 2 月 26 日時点]の特徴

グラフが示す通り、「女性」が多いが、「婦人」も多い。また、「意識」が多めといえる。

さらに、「女性」「婦人」「女子」を一つの変数とし、それを目的変数として他の変数で二項ロジスティック回帰分析(目的変数が質的変数の重回帰分析。尤度比によるステップワイズ法を用いた。)を行うと、「労働」ひとつだけを投入したモデルが、シンプルだが有意となった。「労働」と「女性」の関係を重視した収集がなされている。とみることもできる。

	B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
労働	1.023***		2.782	2.022	3.828
定数	-0.114**		0.892		

(出典: RIWAC オリジナルデータに基づき筆者作成)

(表 2-3) RIWAC-DA における「女性」関連語彙を目的変数とする二項ロジスティック回帰分析(1)

他方、「労働」「生活」「職業」「若者」「実態」を投入したモデルも有意となっていたので、レコード数が多いことにもよるが、まんべんなく集めているとみることもできる。

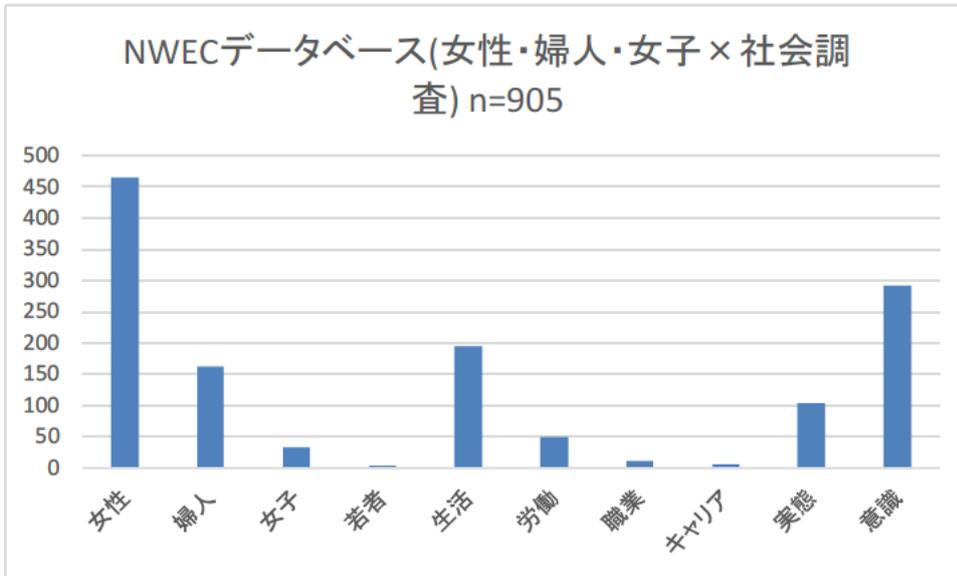
	B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
若者	-21.400		0.000	0.000	
生活	0.574***		1.775	1.316	2.395
労働	1.042***		2.834	2.046	3.924
職業	1.098***		2.998	1.570	5.726
実態	0.278**		1.321	1.039	1.679
定数	-0.306***		0.736		

(出典：RIWAC オリジナルデータにもとづき筆者作成)

(表 2-4) RIWAC-DA における「女性」関連語彙を目的変数とする二項ロジスティック回帰分析(2)

(2-2) NWEC データベースについて

上記の要領で、まず、NWEC データベースの特徴を描き出してみた。ここでは検索語としては「女性」「婦人」「女子」および「社会調査」を入れた。



(出典：国立女性教育会館「文献情報データベース」『独立行政法人国立女性教育会館』(http://winet.nwec.jp/bunken/opac_search/?smode=1) [2019. 2. 25 閲覧]で検索したデータにもとづき筆者作成)

(図 2-26) 各語彙の出現頻度からする NWEC データベースの特徴

NWEC の場合、(RIWAC もそうであるが)「婦人」が多いのが特徴となっている。それは、おそらく古くからの調査資料・文献資料を保存しているため、かつて使われることの多かった「婦人」という語がタイトルにしばしばみられるということであろう。RIWAC に比べ、「生活」、「意識」が比較的多くなっているのも特徴である。この二つの語は、70-80 年代ぐらいに関心の高かった調査課題であることと関係があると考えられる。

RIWAC と同様に、「女性」「婦人」「女子」を一つの変数とし、それを目的変数として他の変数で二項ロジスティック回帰分析を行うと、「実態」ひとつだけを投入したモデルが唯一有意なモデルであった。頻度とは異なる結果で興味深いのが、タイトルに関していうと「女性」に関する「実態」を焦点とした調査が集まっていることになる。

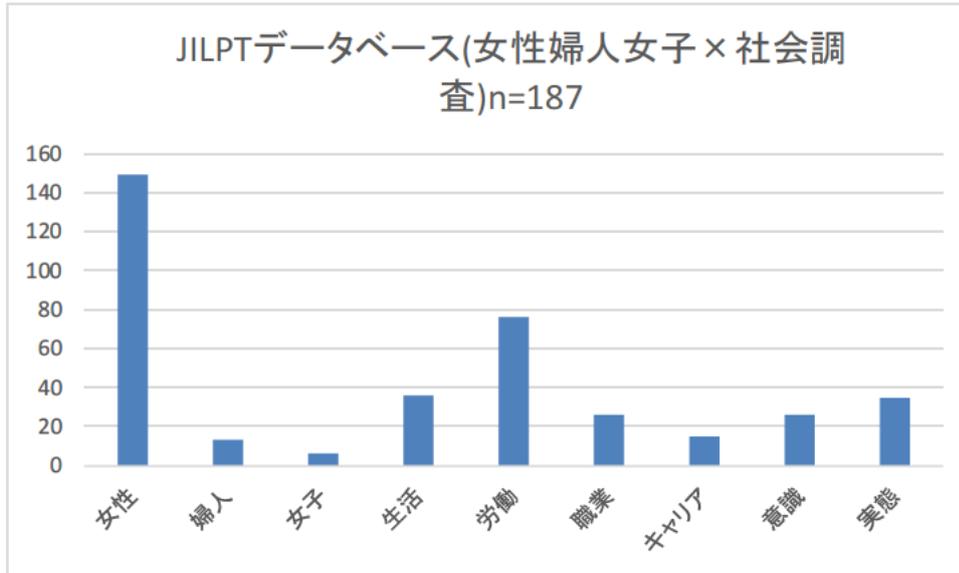
	B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
実態	1.106	***	3.023	1.763	5.185
定数	0.515	***	1.673		

(出典：国立女性教育会館「文献情報データベース」『独立行政法人国立女性教育会館』(http://winet.nwec.jp/bunken/opac_search/?smode=1) [2019. 2. 25 閲覧]で検索したデータにもとづき筆者作成)

(表 2-5) NWEC データベースにおける「女性」関連語彙を目的変数とする二項ロジスティック回帰分析

(2-3) JILPT について

次に、JILPT のデータベースについても同様の手順でリストを作成し、分析を行ってみた。



(出典: 独立行政法人 労働政策研究・研修機構「データベース」『独立行政法人 労働政策研究・研修機構』(<http://db.jil.go.jp/>) [2019. 2. 25 閲覧]で検索したデータに基づき筆者作成)

(図 2-27) 各語彙の出現頻度からする JILPT データベースの特徴

まず、単純集計についていえば、NVEC に比べ「婦人」の割合が少ないことが特徴である。これは、比較的新しい資料が集まっていることと関連があると考えられる。「労働」が多いのも特徴であり、現在の名称が「労働政策研究・研修センター」であることからすると当然のことともいえる。

「女性」「婦人」「女子」を一つの変数とし、それを目的変数として他の変数で二項ロジスティック回帰分析を行うと、「実態」ひとつだけを投入したモデルが、有意ななかでは最もシンプルなものであった。

	B	有意確率	Exp (B)	EXP (B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
実態	2. 291**		9. 880	1. 304	74. 848
定数	1. 236***		3. 441		

(出典: 独立行政法人 労働政策研究・研修機構「データベース」『独立行政法人 労働政策研究・研修機構』(<http://db.jil.go.jp/>) [2019. 2. 25 閲覧]で検索したデータに基づき筆者作成)

(表 2-6) JILPT データベースにおける「女性」関連語彙を目的変数とする二項ロジスティック回帰分析(1)

もうひとつ有意になったモデルは、「実態」と「職業」である。「女性」と「職業」との関連づけるタイトルのものが多かったことになるが、これはかつての名称が「職業研究所」「雇用総合職業研究所」(1969-1990)であったこととも関連がある可能性がある。

	B	有意確率	Exp (B)	EXP (B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
実態	2. 286**		9. 838	1. 290	75. 030
職業	-0. 998**		0. 369	0. 144	0. 942
定数	1. 413***		4. 109		

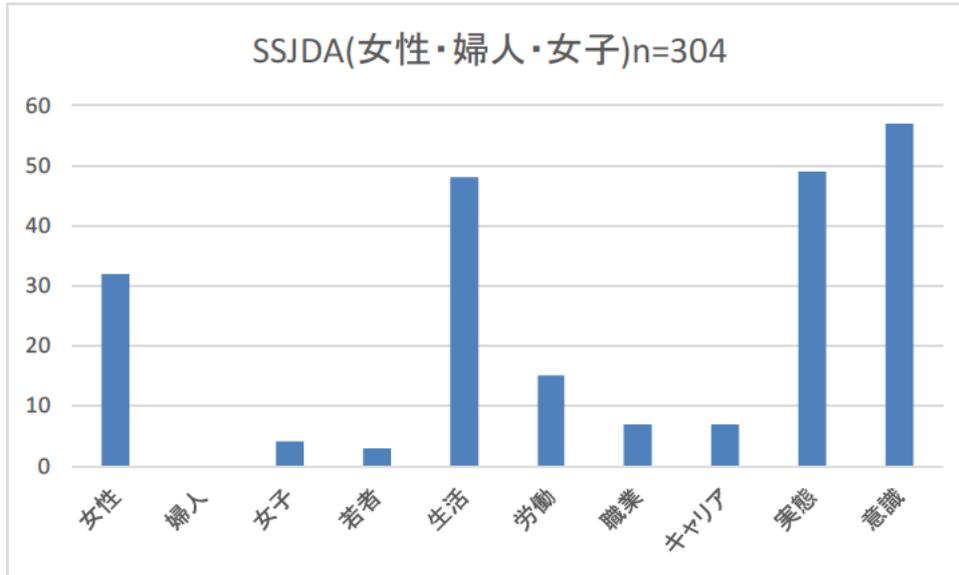
(出典: 独立行政法人 労働政策研究・研修機構「データベース」『独立行政法人 労働政策研究・研修機構』(<http://db.jil.go.jp/>) [2019. 2. 25 閲覧]で検索したデータに基づき筆者作成)

(表 2-7) JILPT データベースにおける「女性」関連語彙を目的変数とする二項ロジスティック回帰分析(2)

(2-4) SSJDA

SSJDA についても同様の手順でデータ名のリストを作成し、分析を行ってみた。ただし、この場合全てが

社会調査と考へ、「女性」「婦人」「女子」を概要に含むかどうかでリストを作成した。



(出典：東京大学社会科学研究所「SSJDA Direct」『東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター』(https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/Direct/datasearch.php) [2019. 2. 25 閲覧]で検索したデータに基づき筆者作成)

(図 2-28) 各語彙の出現頻度からする SSJDA データベースの特徴

調査の焦点に関しては「実態」「意識」の語が登場する頻度が高い。また、内容に関しては「生活」という語が登場する頻度が高い。

これまでと同様に、「女性」関連語彙を目的変数として二項ロジスティック回帰分析を行ってみた。すると、有意なかで最もシンプルなモデルは次のものである。「女性」と「意識」を結び付ける調査が多い特徴をもつといえる。

	B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
意識	2.055	***	7.804	3.711	16.412
定数	-2.670	***	0.069		

(出典：東京大学社会科学研究所「SSJDA Direct」『東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター』(https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/Direct/datasearch.php) [2019. 2. 25 閲覧]で検索したデータに基づき筆者作成)

(表 2-8) SSJDA における「女性」関連語彙を目的変数とする二項ロジスティック回帰分析(1)

次に、有意なかでもっとも変数を多く入れたものは「意識」「実態」「職業」「労働」を入れたものである。ということは、「女性」と「職業」を結び付ける傾向(JILPT データベースと類似)や「女性」と「労働」を結び付ける傾向(RIWAC-DA と類似)もあるということである。

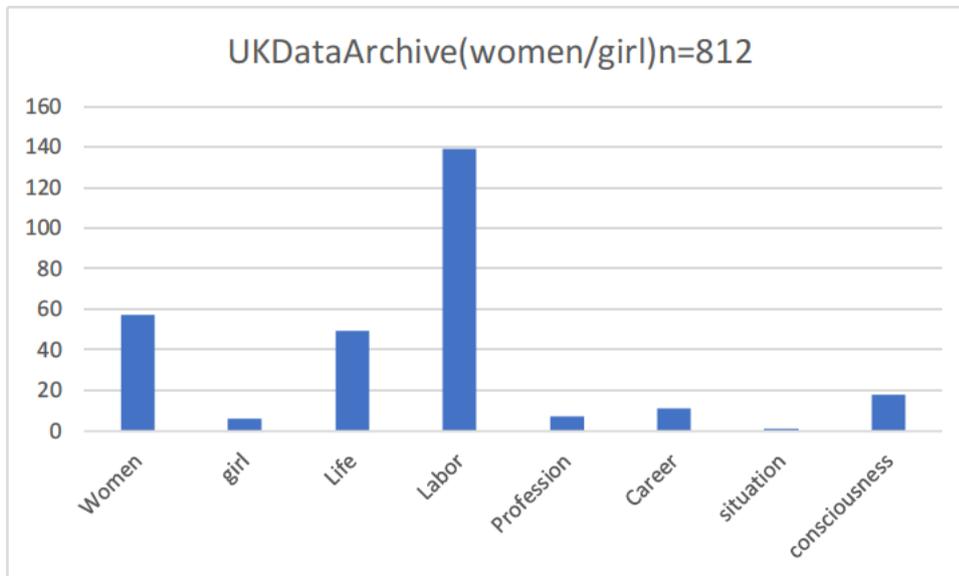
	B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
労働	1.370	**	3.936	1.047	14.804
職業	2.470	***	11.824	2.150	65.025
実態	1.322	***	3.753	1.632	8.628
意識	2.092	***	8.103	3.595	18.265
定数	-3.245	***	0.039		

(出典：東京大学社会科学研究所「SSJDA Direct」『東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター』(https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/Direct/datasearch.php) [2019. 2. 25 閲覧]で検索したデータに基づき筆者作成)

(表 2-9) SSJDA における「女性」関連語彙を目的変数とする二項ロジスティック回帰分析(2)

(2-5) UK Data Archive

UK Data Archive については、「woman」「women」「girl」により検索を行い、リストを作成し、分析を行った。SSJDA 同様、もともと research のみを対象としているため、あえて social research と入れる必要がないと考えた。



(出典: UK Data Archive “UK Data Archive – HOME” UK Data Archive (<http://data-archive.ac.uk/>) [Last access: 2019. 2. 26.] で検索したデータにもとづき筆者作成)

(図 2-29) 各語彙の出現頻度からする UK Data Archive の特徴

まず、Labor が多いのが特徴である。やはりイギリス社会調査の伝統として、労働というものが焦点となってきたことと関係が深いと考えられる。また、生活(life)が多いのも興味深い特徴といえる。これも、労働について調査の焦点となってきたテーマである。

Women と Girl をひとつの変数とし、二項ロジスティック回帰分析を行ったところ、モデルとして唯一有意となったのは、profession と関連付けるモデルである。語彙では labor が多いのであるが、タイトルの中では「women」と「profession」を含むものが多いということである。

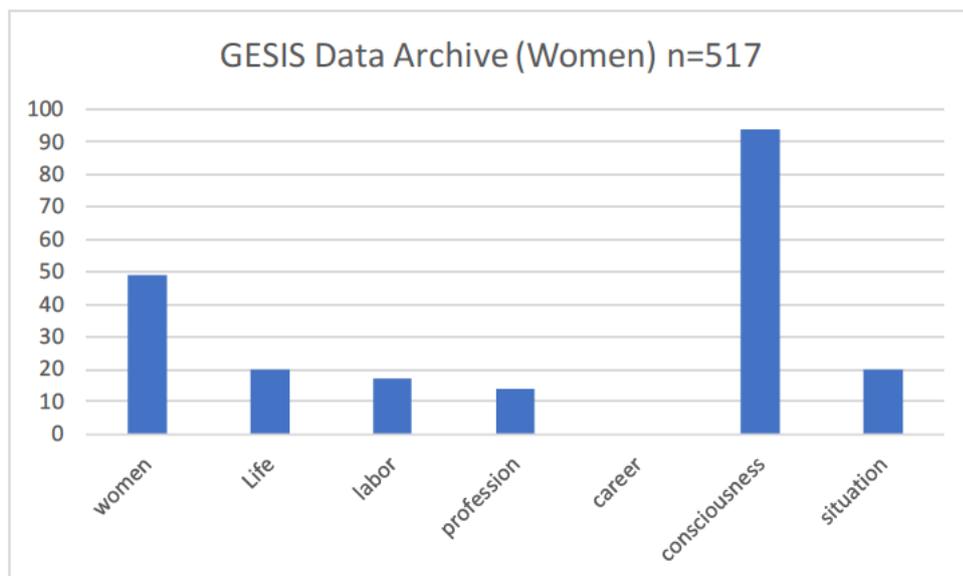
	B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
profession	1.621**		5.058	0.961	26.629
定数	-2.537***		0.079		

(出典: UK Data Archive “UK Data Archive – HOME” UK Data Archive (<http://data-archive.ac.uk/>) [Last access: 2019. 2. 26.] で検索したデータにもとづき筆者作成)

(表 2-10) UK Data Archive における「女性」関連語彙を目的変数とする二項ロジスティック回帰分析

(2-6) GESIS

GESIS に関しても woman, women, girl のほか、ドイツ語の Frau, Frauen, Mädchen などを入れて分析を行ったが、結局 woman, women しか検出されなかったため、女性関連語彙としては woman のみとなっている。これももともと調査に関するデータアーカイブなので、social research は入れなかった。



(出典: GESIS “GESIS: Home” (<https://www.gesis.org/en/home/> [Last access: 2019. 2. 26.] で検索したデータにもとづきにもとづき筆者作成)

(図 2-30) 各語彙の出現頻度からする GESIS の特徴

まず頻度に関していうと、consciousness が多いのが特徴といえる。これは、consciousness という語が多いわけではなく、そのカテゴリに該当するものとした value, Wunsche など意識系の語彙をタイトルに入れた調査が多いということと関係している。

Woman を目的変数として二項ロジスティック回帰分析を行ったところ、有意ななかで最もシンプルなものは、profession のみ投入したものであった。

	B	有意確率	Exp (B)	EXP (B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
profession	2. 082	***	8. 023	2. 661	24. 192
定数	-2. 370	***	0. 093		

(出典: GESIS “GESIS: Home” (<https://www.gesis.org/en/home/> [Last access: 2019. 2. 26.] で検索したデータにもとづき筆者作成)

(表 2-11) GESIS における「女性」関連語彙を目的変数とする二重ロジスティック回帰分析(1)

その他に有意となったモデルは profession のほかに consciousness (ただしこちらは係数が有意ではない) を投入したものであったので、GESIS は意識の分析と女性の分析を結び付けるところにも特徴があるといえる可能性がある。

	B	有意確率	Exp (B)	EXP (B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
profession	1. 854	***	6. 384	2. 115	19. 267
consciousness	-19. 061		0. 000	0. 000	
定数	-2. 141	***	0. 117		

(出典: GESIS “GESIS: Home” (<https://www.gesis.org/en/home/> [Last access: 2019. 2. 26.] にもとづき筆者作成)

(表 2-12) GESIS における「女性」関連語彙を目的変数とする二項ロジスティック回帰分析(2)

(2-7) まとめ

このように、みてくると、RIWAC-DA は、「意識」に注目する調査と「実態」に注目する調査の双方を集めているという点がひとつの特徴といえる。「実態」が多い傾向のある NVEC や JILPT、あるいは「意識」が多

い傾向のある GESIS とは異なっているといえる可能性がある。

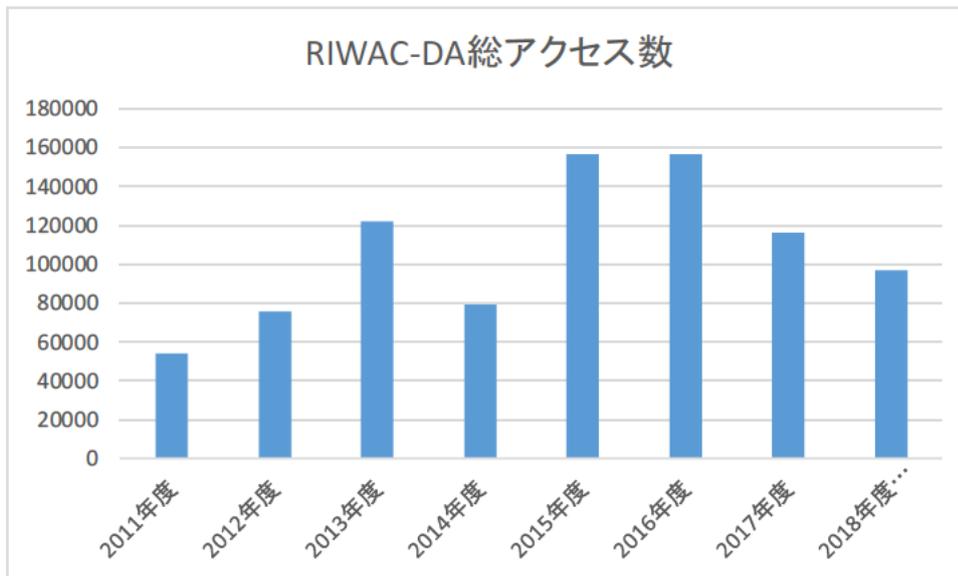
また、「労働」と関連づけるタイトルが多いということは、「職業」と結びつける傾向がある JILPT, UK Data Archive, GESIS などと異なる特徴といえる可能性がある。しかし他方、RIWAC-DA においては多くの変数を含んだモデルでは「労働」とならんで「職業」についての変数も高くなっているため、類似した面があると言える可能性もある。

(3) アクセス数による比較

データアーカイブはインターネット上で公開されているので、アクセス数を測定することが可能である。RIWAC 自身のアクセス数を利用し、かつ他のデータアーカイブの公開されたアクセス数あるいは直接情報提供していただいたアクセス数を用いて比較を行いたい。

(3-1) RIWAC

RIWAC は 2011 年から運用を開始しており、それ以来の年ごとのアクセス数は次のとおりである。

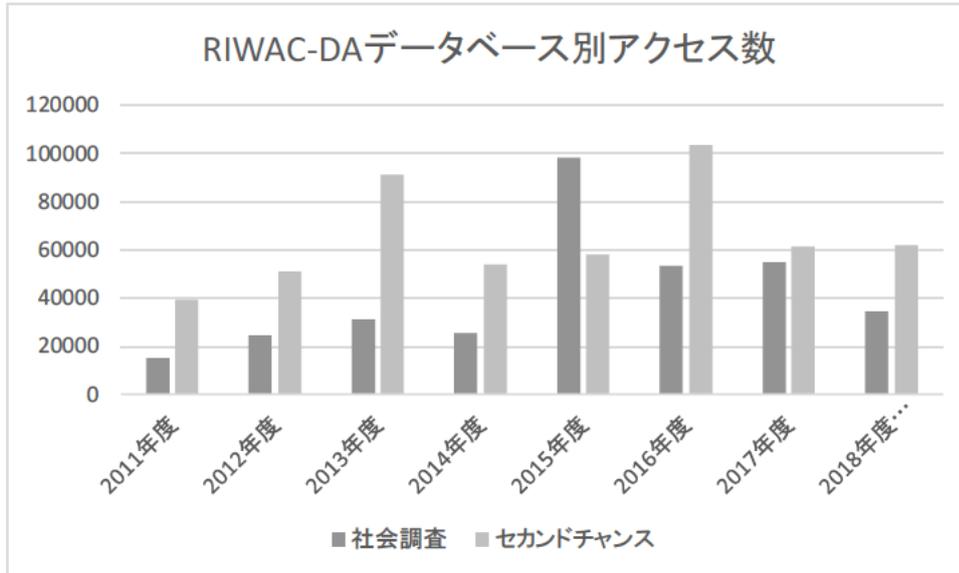


(出典:RIWAC オリジナルデータにもとづき筆者作成)

(図 2-31) RIWAC-DA の年ごとのアクセス数

これをみると、かなり年ごとに変動が激しいが、2015-2016 年度にピークを迎えたあとは次第にアクセス数が減ってきているが、それでも当初の 2011 年度や一時期アクセス数が減った 2014 年度よりも高くなっており、ある程度の知名度が得られていると考えることができる。

次にデータベースごとのアクセス数をみてみよう。



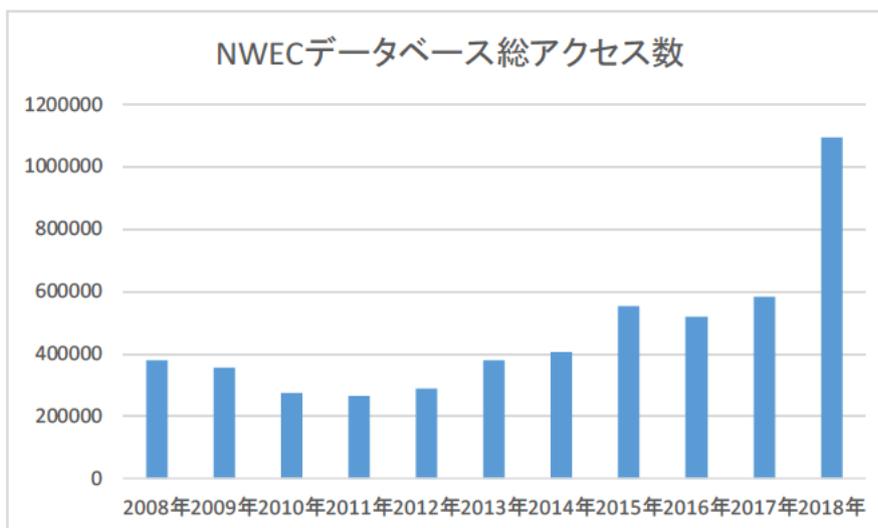
(出典:RIWAC オリジナルデータにもとづき筆者作成)

(図 2-32) RIWAC-DA のデータベースごと及び年ごとのアクセス数

これを見ると一貫して「セカンドチャンス」データベースのアクセス数が上回る傾向があるが、2015年には、社会調査データベースサイトのアクセス数が上回っている。この年は、①RIWAC 関係教員が『なぜ女性は仕事を辞めるのか—5155 人の軌跡から読み解く』（岩田正美/大沢真知子編著, 日本女子大学現代女性キャリア研究所編, 2015, 青弓社)などの関連書物を出版した⁽¹¹⁾、②下半期に NHK の連続テレビドラマ小説『朝が来た』が放映された(これも多少はキャリア的なモチーフが入っている)などの要因が考えられる。もし①が大きいとすれば、研究者にアピールする活動を行うことが「社会調査データベース」のアクセス数増大に寄与する可能性がある。「セカンドチャンス」が2016年に伸びていることをふまえると②の影響が大きい可能性もあるが、むしろ研究者以外の一般の方々にアピールする活動が重要であることになる。

(3-2) NWEC

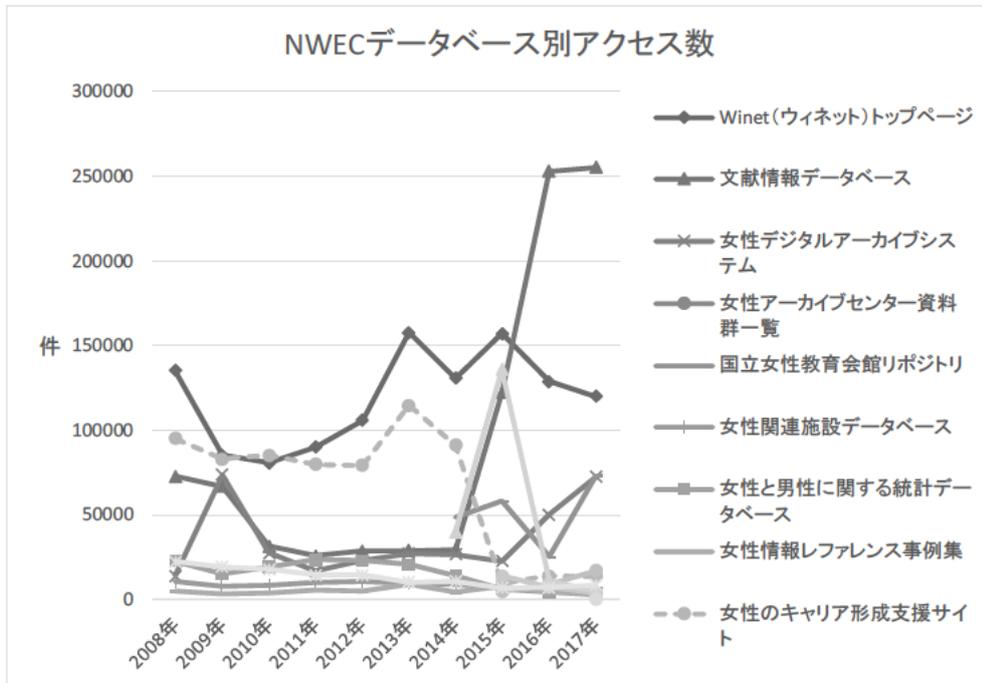
国立女性教育会館については、情報課より各データベースのアクセス数についての情報を提供していただいた。まず、すべてのデータベースのアクセス数を足し合わせたものを「総アクセス数」と考えて作成したグラフが以下のとおりである。



(出典:NWEC から提供していただいたデータにもとづき筆者作成)

(図 2-33) NWECDデータベースの総アクセス数

2008年以降若干低迷する傾向があったが、2012年以降は、少しずつアクセス数が増え、特に2015年と2018年は急速にアクセス数が伸びている。このうち前者については、2014年2015年に新しいサイトを設けたことが、アクセス数の伸びにつながっているといえるが、2018年の急速な伸びについては、どのような事情が調査が必要であるが、医学部入試の問題などが話題になったことが影響しているとも考えられる。



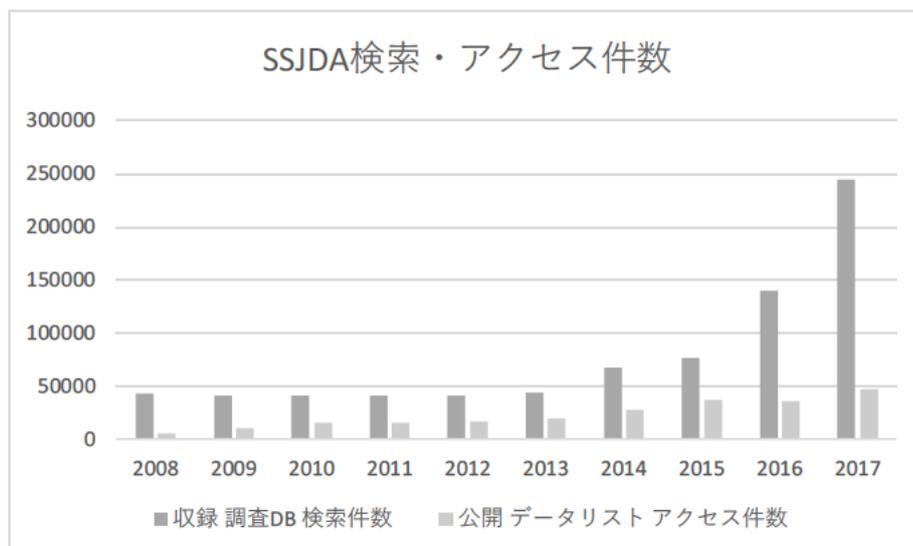
(出典：NWEC から提供していただいたデータにもとづき筆者作成)

(図 2-34) NWEC データベースのデータベース別アクセス数

これをみると、最近の総アクセス数の伸びが、一つには新しいサイトの開設によっていることが明らかになるものの、それだけではなく2016-2017年が示すように、文献情報データベースのアクセス数が急激に伸びたことが背景にあるとわかる。

(3-3) SSJDA

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターの社会調査データベースでは、「新規公開データセット数」「累積公開データセット数」「利用申請件数」「利用申請研究者数」「提供データセット数」「発表論文数」「収録調査DB検索件数」「公開データリストアクセス件数」などを公開している。それらのなかから「収録調査DB検索件数」「公開データリストアクセス件数」のみを利用して2008年以来的変化を追ってみた。

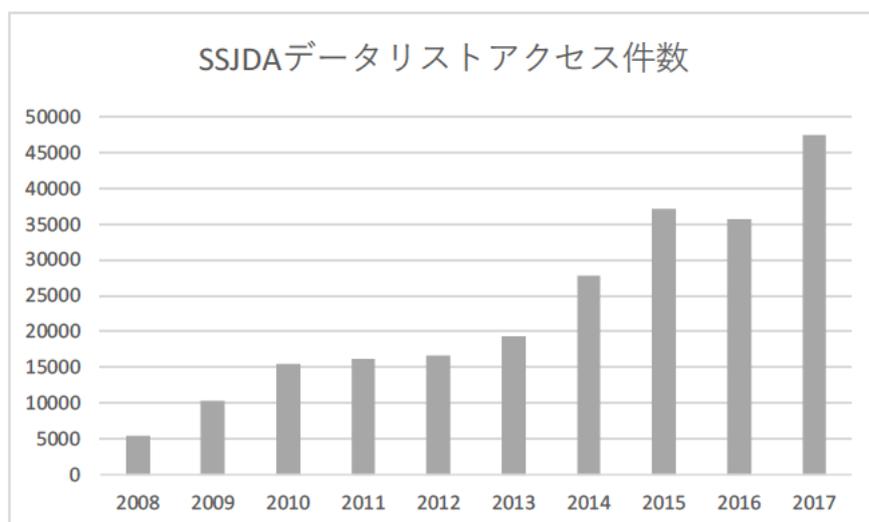


(出典：東京大学社会科学研究所「SSJDA の寄託・利用統計」『東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター』(<https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/ssjda/stat/>) [2019. 2. 25 閲覧]にもとづき筆者作成)

(図 2-35) SSJDA の「収録調査 DB 検索件数」「公開データリストアクセス件数」の年次変化

それによると、2008-2013 年ぐらいまでは、あまり変化がなかったのに対し、特にデータベース検索件数のほうは、2014 年から急速に伸びているのがわかる。

「公開データリストアクセス件数」のみのグラフを作成してみても、やはり 2014 年ごろからアクセスが増大しているといえる。



(出典：東京大学社会科学研究所「SSJDA の寄託・利用統計」『東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター』(<https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/ssjda/stat/>) [2019. 2. 25 閲覧]にもとづき筆者作成)

(図 2-36) SSJDA の「公開データリストアクセス件数」の年次変化

(3-4) まとめ

RIWAC-DA、NWECC データベース、SSJDA に関する以上のようなアクセス件数のデータをふまえて次のようなことがいえよう。

まず、少なくとも NWECC、SSJDA のデータから見る限り、アクセス数は全体として上昇する傾向にあるのではないかと、ということである。そういう前提で言えば、RIWAC-DA のアクセス数が 2016 年以降伸び悩んでい

ることは心配すべき状況にあるともいえ、何らかの対策をたてる必要があるかもしれない。2015年にアクセス数が一時的に増大しているのは、既に述べたように、①現代女性キャリア研究所で独自調査を実施して成果を公開したこと②たまたまテレビドラマの舞台となったことなどが影響していると考えられるわけだが、①だとすると、たとえば国立女性教育会館や東京大学社会科学研究所が行っているように、定期的に独自調査を実施して成果を公開していくことが、Schwellenberg(1984)のいう「証拠的価値(Evidential Value)」の高いレコードを増やしていくことでありアーカイブにとっても有益な影響を与えとも考えられる。ただそのためには独自調査を実施するだけの予算と人員が必要である。また、本研究のように、アーカイブそれ自体を調査分析することで「証拠的価値」のある研究成果をあげることも、ひとつの方策として提案したい。

次に、RIWACが公開している二つのデータベースのうち、「セカンドチャンス」のほうが、アクセス数が多いということである。これも全体と同様に伸び悩んでいるものの、「社会調査データベース」のように2017年から2018年にかけて減少しているということはない。NVEC、SSJDAのデータアーカイブで最近伸びているのは、文献情報データベースや国立女性教育会館リポジトリや調査データベースなど研究系の需要である。「セカンドチャンス」のアクセスを維持しているのが一般の利用であるとしたら、「社会調査データベース」のアクセスを増やすためには、より研究者のニーズにこたえるようなものにしていく必要がある。そのためには、先ほども述べたように、予算と人員の配置が不可欠といえる。「社会調査データベース」サイトのアクセスし易さを増していくことも必要であろう。

3. 結論

3-1. 考察のまとめ

以上のような考察をまとめて、次のようなことがいえる。

まず、女子大学の女性関連施設として狭義のデータアーカイブ(RIWAC-DA)をもつということが特徴的だということである。国立女性教育会館(NVEC)や労働政策研究・研修機構(JILPT)は、省庁の外郭団体として充実した狭義のデータアーカイブをもつし、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター(SSJDA)は頂点に立つ国立の研究大学として狭義のデータアーカイブを持っている。しかし、梨花女子大学女性学のためのアジアセンター(ACWS)やチェンマイ大学女性学センター(WSC CMU)がそうであるように、また国内の大学の女性センターがそうであるように、学術雑誌や定期イベント、大学院といった広義のデータアーカイブは持っていない、大学の女性関連施設はデータアーカイブを持たないことが通例なのである。このことは、RIWAC-DAの大変さを裏付けると同時に、その存在価値をも示しているともいえる。

次に、内容に関していえば、(1)RIWAC-DAは、「意識」と「実態」の双方に目配りを行っていることが特徴で、「実態」が多い傾向のあるNVECやJILPT、「意識」が多い傾向のあるGESISとは異なる。(2)RIWACは「労働」を含む傾向があり、「職業」を含む傾向が強いJILPT、UK Data Archive、GESISとは異なるともいえるが、多くの変数を含むモデルでは「職業」を含む傾向も強いので、これらと似ているともいえる。逆にいえば、こうした傾向がみられないNVECとは異なるともいえる。

三つ目に、アクセス数に関していえば、RIWAC-DAは継続的にアクセス数を獲得している。ただしNVEC、SSJDAのデータから見る限り、アクセス数は全体的に上昇傾向にあるとみられるため、RIWAC-DAのアクセス数は伸び悩んでいるともいえる。2015年にのみ一時的に急上昇がみられたが、これは、同年に現代女性キャリア研究所が独自調査にもとづいた本を出版したことと関係があるのではないかと考えられた。

以上をまとめるならば、RIWAC-DAは、女子大学の女性関連施設としては異色な存在であり、困難をかかえてはいるものの「労働」「職業」に関し「意識」と「実態」の双方に目配りしたデータベースとして現在の社会において一定の役割を果たしているが、アクセス数が伸び悩んでいる面もあり、「証拠的価値」を持ったレコードを増やしていくことが必要とされているといえる。

3-2. 今後の課題

まずRIWAC-DAとしての課題は、(1)今後も継続的に更新を続けていく予定であるが、収集数が頭打ちになる傾向があり、入力可能な報告書を継続的に入手するルートを開発すること、(2)さらにそれにとどまらず、本研究をひとつの契機として、RIWAC-DAそれ自体に関する研究を成果に結び付けていく道筋をつけることである。次にデータアーカイブ研究としていえば、(1)今回はNVEC、JILPTとの導入的な比較を行ったが、アク

セスデータ、カタログデータいずれについても、よりインテンシブな研究が可能と考えられる。また、海外との比較では、組織としては韓国の ACWS、タイの WSC CMU、データアーカイブの内容とアクセスに関してはイギリスの UK Data Archive、ドイツの GESIS との比較を行ったが、他の地域・事例との比較も今後は視野に入れていきたい。

【参考文献】

Hill, Edward, E. 1984. "The Preparation of Inventories of National Archives." Pp. 211-235. *A Modern Archives Reader: Some Basic Readings on Archival Theory and Practice*, edited by M. F. Daniels and T. Walch. Washington D.C.: National Archives and Research Service U. S. General Services Administration.

岩田正美/大沢真知子編著, 日本女子大学現代女性キャリア研究所編 2015 『なぜ女性は仕事を辞めるのか—5155人の軌跡から読み解く』 青弓社。

Luhmann, Niklas 1998. *Die Gesellschaft der Gesellschaft*. Teilbd. 2. Frankfurt am Main: Suhrkamp.

尾中文哉 2015 『「進学」の比較社会学— 三つのタイ農村における「地域文化」との係わりで—』ハーベスト社などがある。

Onaka, Fumiya (ed.) 2019 *Comparative Sociology of Examinations*. Routledge.

大沢真知子 2015 『女性はなぜ活躍できないのか』 東洋経済新報社。

大沢真知子・日本女子大学現代女性キャリア研究所編 2019 『なぜ女性管理職は少ないのか 女性の昇進を妨げる要因を考える』青弓社。

Posner, Ernst. 1984. "Some Aspects of Archival Development: Since the French Revolution." Pp. 3-14. *A Modern Archives Reader: Some Basic Readings on Archival Theory and Practice*, edited by M. F. Daniels and T. Walch. Washington D.C.: National Archives and Research Service U. S. General Services Administration.

三具淳子 2018 『妻の就労で夫婦関係はいかに変化するのか』ミネルヴァ書房。

三具淳子・仲田周子. 2011. 「女性とキャリアに関する社会調査データ・アーカイブ—RIWAC・DAの構築とその特徴—」『現代女性とキャリア：日本女子大学現代女性キャリア研究所 紀要』31(3):14-35.

Schwollenbert, Theodore, R. 1984. "The Appraisal of Modern Public Records." Pp. 57-70. In *A Modern Archives Reader: Some Basic Readings on Archival Theory and Practice*, edited by M. F. Daniels and T. Walch. Washington D.C.: National Archives and Research Service U. S. General Services Administration.

【註】

(1) 国立女性教育会館「NWEC の概要」『独立行政法人国立女性教育会館』(<https://www.nwec.jp/about/information/about.html>)[2019.2.25 閲覧]

(2) そのほかに、「女性情報 CASS」と「男女共同参画人材情報データベース」があるが、休止中のため紹介できなかった。

(3) 独立行政法人 労働政策研究・研修機構「組織案内」『独立行政法人 労働政策研究・研修機構』(<https://www.jil.go.jp/outline/index.html>)[2019.2.28 閲覧]

(4) 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター「SSJDA とは?」(<https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/ssjda/about/>)[2019.2.25 閲覧]

(5) 同上。

(6) 同上。

(7) UK Data Archive "About the Archive" UK Data Archive (<http://data-archive.ac.uk/about/archive>)[Last access: 2019. 2. 26.]

(8) 同上。

(9) GESIS “GESIS Leibniz Institute for the Social Sciences” (<https://www.gesis.org/en/institute/>)
 [Last access: 2019.2.26.]

(10) 同上。

(11) 研究所関係者による最近の他の出版としては、大沢真知子・日本女子大学現代女性キャリア研究所編 2019 『なぜ女性管理職は少ないのか 女性の昇進を妨げる要因を考える』青弓社、大沢真知子 2015 『女性は何で活躍できないのか』東洋経済新報社、三具淳子 2018 『妻の就労で夫婦関係はいかに変化するのか』ミネルヴァ書房、Fumiya Onaka(ed.) 2019 *Comparative Sociology of Examinations*. Routledge、尾中文哉 2015 『「進学」の比較社会学— 三つのタイ農村における「地域文化」との係わりで—』ハーベスト社などがある。

〈発 表 資 料〉

題 名	掲載誌・学会名等	発表年月
Changes in Gender Issues Within the Family: An Analysis of Bibliographic Data,1975-2013 (Akiko Nagai)	The 1st RC33 Regional Conference on Social Science Methodology: Asia (Taipei)	September, 2017
Determination of Text Mining Analysis Efficiency through Vocational Career Data Analysis in a Bibliographic Database (Yuka Mitarai)	The 1st RC33 Regional Conference on Social Science Methodology: Asia (Taipei)	September, 2017
Two Ways of Correspondence Analysis on a Women's Career Data Archive(Fumiya Onaka)	The 1st RC33 Regional Conference on Social Science Methodology: Asia (Taipei)	September, 2017
『平成 27～30 年度電気通信普及財団助成研究事業報告書 近現代日本における女性とキャリアに関する社会調査データアーカイブ構築にもとづく比較社会学的研究』	日本女子大学	2019年3月